

【家庭分野の目標】

衣食住に関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

【評価の観点・方法】

<評価の観点>

「知識・技能」「思考・判断・表現」

「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で評価します。

<評価の方法>

①「知識・技能」

「知識」については、実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的な知識を身に付けているか、また、生活と技術とのかかわりについて理解しているかどうかを評価します。主に、学習プリントの記入状況、定期テストなどを評価します。

「技能」については、実際の生活の場面で必要とされる基礎的な技術が身に付いたかどうかを評価します。主に、学習過程における技能の習熟状況、完成した作品などにより評価します。

②「思考・判断・表現」

習得した知識や技術を積極的に活用し、生活を工夫したり創造したりする能力を評価します。主に、既習事項の活用状況や実際の生活の場で自分の考えを深め、工夫したり、創造したりする状況などにより多面的に評価します。（レポートやワークシート、振り返りカード、発表など）

③「主体的に学習に取り組む態度」

積極的に取り組む意欲や態度を重視して評価します。主に、作業や実習、毎時間の学習への取組状況、作品の提出状況、学習プリントなどを評価します。

時間	学習内容	学習のねらい
70 時 間	食生活と自立 ○食品の選択と保存 ・食品の選び方 ・食品の表示と保存 ・調理の計画 ・包丁を上手に使おう ・肉、魚、野菜を調理しよう ・食生活の改善 ○地域の食材とその調理 ・地域の食材と食文化 ・行事食や郷土料理	・食品の表示やマークの意味を理解し、食品を適切に選択することができる。 ・食材の調理上の性質を理解し、安全に調理する技能を身につける。 ・食生活をよりよくするための工夫が考えられる。 ・日本の伝統料理や行事食について調べ、家庭で調理を実践することができる。
	住生活と自立 ○快適に住まう ・住まいのはたらき ・安全な住まい ・快適な住まい	・住まいのはたらきを知り、安全で快適な住まい方を工夫することができる。 ・汚れに応じた清掃と手入れ、用具や溶剤の安全な取り扱いを理解する。
	身近な消費生活と環境 ○家庭生活と消費 ・生活に必要なものの流れ ○商品の選択と購入 ・商品購入のプロセス ・販売方法と支払い方法 ・消費生活のトラブルを防ぐ ・消費者の権利と責任 ・消費者を支えるしくみ ○環境に配慮した生活 ○生活を豊かにする物をつくる ・布を用いたものの製作 ・環境への影響を考えた消費生活	・さまざまな情報の中から、信頼できる情報を見極め、かしこい消費者について考える。 ・契約の意味や、契約の解除についてなどの正しい知識を身につける。 ・環境に配慮した商品を選択することができる。 ・布を用いた物作りを通して生活を豊かにする工夫を考えることができる。 ・材料や用具を正しく使い、製作できる。

【家庭学習のしかた】

休日の食事作りやYシャツのボタンつけなど、授業で習ったことを生活の中で実践してみましょう。家庭での自分の役割を確認し、自立に向け、さらに自分でできることを増やしていきましょう。